

特集

いよいよ開業!

地下鉄東西線

仙台市地下鉄東西線の開業で、私たちのまちや暮らし、企業活動はどのように変化していくのでしょうか。今月は当所「東西線沿線駅周辺まちづくり研究会」で会長を務めていただいた柳井雅也先生をはじめ、東西線沿線でその活用方法やまちづくりを模索してきた方々に、これまでの活動や東西線に対する期待、南北線との相乗効果などについてお話を伺いました。

沿線地域にとどまらない 東西線開通のメリット

東北学院大学教養学部地域構想学科教授

柳井 雅也 氏
やない まさや



「パーク&ライド」で広がるメリット
既存の南北線に加えて東西線が開業し、鉄道が本来もっている定時性・多頻度・大量輸送という数々のメリットを、仙台市全体で初めて実感することになります。通勤・通学面の利

便性が向上するのはもちろんのこと、企業が地下鉄利用を推進すれば、環境に配慮した企業であることをアピールできます。また、地下鉄は運行の正確性が確保しやすいので、例えば営業マンなどは、効率良く客先を訪問できるように becoming 営業範囲が広がるかもしれませんし、自動車から地下鉄に切り替えること



によって、企業が保有する自動車の台数や、確保しなければならぬ駐車スペースが減少するというコストメリットも出てくるはずだ。

もう一つは、新しい産業の集積が図られる可能性があるということだ。卸町や印刷団地には、仙台市が推進するクリエイティブ産業が集積していますが、クリエイターたちの、仙台駅まで、あるいは新幹線に乗り継いで東京に行く…その移動が迅速になりますので、仕事によりスムーズに進むかも知れません。今後パーク&ライドの仕組みをしっかりとつくることで、隣接する都市や地下鉄沿線でない地区の住民にとっても、利用価値の高い路線になっていくと思います。

各駅の宝に光りを当てて シームレスに結びつける

沿線地域のまちづくりのポイントは、「各地域がもっている資源を結びつけること」ではないでしょうか。その際のキーワードは「シームレス(途切れのない、継ぎ目のないという意味)」で、東西線の最末端の駅である八木山動物公園駅には、動物園や遊園地、荒井駅の近くにはアウトレットモール、水族館があります。これらが「シームレス」につながります。また東西線沿線には歴史的・文化的価値のある名所や寺社などがありますので、これらを「シームレス」に結びつけるレジャーや観光を担う路線としても期待できます。この点からも、東西線は通勤・通学での利用者が多い南北線とは異なる価値をもっていると言

えます。

もう一つ例を挙げますと、都心ゾーンと自然・文化体験ゾーンとを結びつけて、観光客に仙台を一日観光していただいて、最後に仙台朝市で食材を買ってもらい、それを「旅館」や「飲食店」などに持ち込む。持ち込んだ材料と、旅館や飲食店がもっているいち押し地の元の食材とを組み合わせて、夕食として提供する…新しいビジネスモデルをつくることもできるわけです。

また東西線ができたことで、着地型観光が可能になります。例えば仙台駅にある総合案内所にプロの案内人を用意して、丸ごと仙台を体験できる一日東西線の旅を提供します。南北線と組み合わせても良いですね。さらに外国人の方も案内できるようにすることで、国際化促進にもつながっていくでしょう。

今後は東西線沿線の地域をもっと深掘りして、いままで埋もれていたものに光りを当て、それらを結びつけることによって価値を増す。そういった地域の付加価値向上のツールとしても、東西線を活用することができるのではないのでしょうか。計り知れない可能性を秘めた東西線は、これまでにない取り組みができる、いわばフロンティアです。一つひとつの駅、あるいは各地域において常に新しい試みにチャレンジし続けることで元気を発信し、東西線がたくさんの人に親しまれ、愛される路線になることが、仙台のにぎわい創出につながっていくのだと思います。

仙台商工会議所も東西線建設を積極的に後押ししてきました！

昭和 63年 3月	地下鉄東西線建設促進期成同盟会設立(平成3年「東西線建設促進期成同盟会」に改称)
平成 元年 8月	「仙石線仙台地区連続立体交差事業ならびに地下鉄東西線の建設促進」署名運動実施(個人署名141,485人、団体賛同署名136団体)
平成 7年1~3月	「東西線建設促進」10万人署名運動実施(個人署名188,565人、団体賛同署名173団体)
平成 14年 2月	東西線沿線まちづくり推進協議会設立
11月	仙台市東西線建設促進市民総決起大会開催(参加者1,000人)
平成 15年 10月	許可は出た!いよいよ“まちづくり”!地下鉄東西線事業許可報告会開催(参加者250人)
平成 17年 1月	準備万端!地下鉄東西線とまちづくり東西線の早期実現へ!!~市民の集い~開催(参加者200人)
6月	東西線早期着工推進大会開催(参加者300人)
11月	平成18年着工実現!地下鉄東西線の加速的推進をめざす市民大会開催(参加者350人)
平成 18年 2月	地下鉄東西線沿線まちづくりシンポジウム開催(参加者250人)
平成 19年	地下鉄東西線工事着工
2月	地下鉄東西線着工記念式典~早期開業の実現と沿線街づくりの推進~開催(参加者450人)
平成 21年 2月	東西線沿線駅周辺まちづくり研究会設立
平成27年12月6日	仙台市地下鉄東西線開業!

この間、10回以上にわたり東西線建設に関する陳情・要望活動を国・宮城県・仙台市等に実施したほか、東西線開業後を見据えた先進地視察セミナー等の各種事業を展開。平成21年以降は、まちづくり研究会として、沿線地域の商店街や業種団体、町内会関係者らと、新たなまちづくりに関する意見交換などを行ってきた。

仙台の食の生産地、 そして「海の玄関口」へ

仙台荒井東土地区画整理組合 理事長

庄子 秀夫 氏



災害復興住宅の建設を最優先にしたことで、地下鉄荒井駅前の整備が順番的には後になりましたが、他にはない区画整理を行い、良いまちをつくらうとこの組合を設立したのが平成22年でした。同時期に荒井東まちづくり協議会を立ち上げ、まちづくりの基本的構想を練りました。ここ荒井は田園風景が広がる仙台の食の生産地とも言える場所ですから、駅前広場や、まちの中央部に設ける約二千坪の公園などを利用して、朝市のようなマルシェを開き、多くの人に訪れていただきたいと思っています。また、公園は災害時の避難場所としても活用していこうということで、今後の展開を考えているところです。当初は仙台随一の深沼海水浴場を取り込んだまちづくりも考えていましたが、震災で壊滅的な被害を受けてしまいました。そこで海岸

の復興と共に、例えば荒井まで地下鉄で来て、ここから海までの約3キロの距離はレンタルバイクを利用させていただく。そんなことができるようになれば、荒井駅は仙台の「海の玄関口」になるでしょう。区画整理事業終了後は、一般社団法人タウンマネジメントが住民や企業の困りごとを伺うなどして、この地域を持続的に向上させる役割を担って行く予定です。新しいまちの姿に期待しています。



荒井駅周辺の将来のイメージ

仙台

宮城野通

連坊

薬師堂

卸町

六丁の目

荒井

各地域・機関と連携し、 機能強化を目指します

協同組合仙台卸商センター 理事長

氏家 裕一 氏



13駅各駅の異なる地域資源が結ばれることになるので、新たな地域交流とビジネスチャンスが生まれることを期待しています。また地下鉄南北線と合わせての交通軸ができ、通勤の利便性・定時性が確保できることで、駅周辺地域の企業には求人面での有利性ももたらされるのではないのでしょうか。



毎年恒例の「クロッサム卸町ふれあい市」の様子。毎回多くの来場者でにぎわう地域の交流イベント

開業日に合わせた地下鉄東西線開業イベントの開催をはじめ、一般の方々向けには「街あるきマップ」を制作中です。また地下鉄東西線により、卸町と印刷工業団地が立地する六丁の目、沿線の大学等が一本で結ばれることから、東北大学や東北工業大学との協定締結に向けた検討も進めていきたいと思っています。さらに来年1月中旬には、カタール基金を活用したプロジェクトで、起業家育成・支援のためのINTILAQ（インテラック）が卸商団地内にオープンします。当組合が運営するクリエイティブ施設「TRUNK」と共に、印刷団地との連携によるクリエイティブ関連産業のさらなる集積や、大学等と連携したクリエイティブ育成などにより、組合の事業強化、機能強化につなげていきたいと思っています。

「チャレンジ」を続け、 仙台を盛り上げます

株式会社藤崎
営業企画部 営業企画担当 課長

勢田 誠一 氏



私たちはこの1年をチャレンジの年と位置付け、青葉通一番町駅と直結する本館地下2階の生鮮売場をリニューアルしたのをはじめ、沿線のエリア戦略としてヴィーフジサキ六丁の目店をオープンしました。さらに10月にはマネーチャージができる新しい「+（プラス）Fカード」をスタートするなど、さまざまなチャレンジを重ねてまいりました。

社内の取り組みとしては、「地下鉄開業プロジェクト」を立ち上げ、仙台市の市民参加型プロモーション



地下鉄開業に伴うオリジナル商品のプレス発表の様子(11月6日)

「WEプロジェクト」とタイアップして、藤崎のシンボルである恵比寿さまが登場するポスターを作成したり、開業を記念したオリジナルグッズを作成するなどして、開業を祝う準備を進めてきました。連携という部分では、八木山動物公園とタッグを組み、動物のスケッチコンテストを予定しています。また、沿線大学の東北大学、東北工業大学との開業イベントを計画している他、開業後も、東北大学の留学生の方々にも協力をいただき、仙台の国際化へつなげていくプロジェクトも計画中です。その他にも、開業日に青葉通一番町駅が位置するサンモール商店街を中心としたさまざまな団体が連携・協働する開業盛り上げイベントにも参加していきます。このような中心商店街の連携イベントを開業後も継続して開催し、また参加することで街のにぎわいの向上と活性化に貢献していきたいと思っています。

W

E

八木山動物公園

青葉山

川内

国際センター

大町西公園

青葉通一番町

活動範囲が広がり、 「学び」も豊かに

東北工業大学 地域連携センター 事務長

猪野 信 氏

東北工業大学 COC推進室プロデューサー

佐藤 明 氏

これまで路線バスで通学していた学生の多くが、東西線を利用することになると思います。そこで、本学では来春から学生証とICカード乗車券「イクスカ」を一体化することにしています。また本学と同一法人の仙台城南高校のキャンパスと八木山動物公園駅との間にシャトルバスを運行することになりました。今回の東西線の開業によって学生たちの通学や移動がスムーズになり、それが学内・外の学びの質を高め、行動の幅を広げるのに大いに役立つことを期待しています。(猪野氏談)

本学では現在、昨年度文科省の大学COC事業※に採択された「オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業」を仙台市と共に進めています。これは大学が地域志向を目指す人材を育成しようというもので、そ

の中で地下鉄東西線沿線のまちづくりに関する活動を行ってきました。事例として2人の教員が指導にあたり、学生が直接地域の方々や企業と関わりながら、地下鉄沿線のマップづくりなどを進めてきました。学生がもつ独特の視点や若い力を八木山駅周辺だけでなく、仙台のまちづくりに生かしていきたいと思っています。(佐藤氏談)



同校による「せんだい創生プロジェクト まち歩きマップづくり編集会議」の様子

※ 大学COC事業…「地(知)の拠点整備事業」。大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援すること。